

# 第2言語としての日本語聴解におけるテキストの真正性： — スクリプトの有無によるパフォーマンス比較を通して— 沈倍宇（昭和女子大学大学院生）・横山紀子（昭和女子大学）

## ■研究動機

現状：学習者が耳にする音声テキストの大半はスクリプトに基づいて

録音したもの

聴解の市販教材 VS 自然な音声

(スクリプト有のテキスト) (スクリプト無のテキスト)

スクリプト有のテキスト：話速や口語体の特徴（フィラー、言い直し、相槌等）において自然さの欠落

スクリプト有のテキストとスクリプト無のテキストに注目

## ■先行研究

➤ 両タイプのテキストの特徴 (Wilson, 2010) :

スクリプト無のテキスト	スクリプト有のテキスト
発話の重なりと中断が多い	発話の重なりが少ない
普通の話速	普通の話速より遅い
あまり構造化されない言語	構造化された言語、書き言葉的な表現
不完全な文、言い直し、ためらい等	完全な文
雑音あり	雑音なし
自然な中止と開始	不自然な中止と開始
フィラーで埋められ、情報の密度が薄い	情報の密度が濃い

➤ スクリプトの有無による聴解パフォーマンス (Wagner & Toth, 2014) :  
スクリプト無の聴解テキスト → より困難

スクリプト無のテキストを第二言語カリキュラムに積極的に組み込むべき

■ 残された課題：スクリプト有無による聴解過程の違い？

## 研究課題1

スクリプト有の会話テキストとスクリプト無の会話テキストを使用した日本語聴解では、学習者の聴解パフォーマンスはどのように違うか。  
(記述式聴解テストの得点→聴解パフォーマンス)

## 研究課題2

スクリプト有の会話テキストとスクリプト無の会話テキストを使用した日本語聴解では、学習者の聴解過程はどのように違うか。  
(回想インタビューによるプロトコルデータ→聴解過程)

## ■方法

被験者：中国上海市の大学で日本語を専攻とする大学3年生26名

スクリプト無のテキスト：国立国語研究所の「多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)」の依頼と断りのロールプレイとして収録されている日本語母語話者 (JJJ04) の発話をスクリプト無のテキストとして採用した。

スクリプト有のテキスト：スクリプト無の音声テキストを基に、全てのフィラー、言い直し、及び相槌等を削除し、Wilson (2010) 及び日本語能力試験N1の聴解スクリプトを参考に、修正したものだ。

手順：【無作為】「依有断無」(G1群) [13名]/「依無断有」(G2群) [13名]→記述式聴解テスト→中国語で回想インタビュー [3名/群]

\* 「依有断無」群：「依頼場面」のスクリプト有のテキスト、「断り場面」のスクリプト無のテキストを聴かせる群  
「依無断有」群：「依頼場面」のスクリプト無のテキスト、「断り場面」のスクリプト有のテキストを聴かせる群

## 結果：

「依頼場面」：「依有断無」群 (G1) > 「依無断有」群 (G2)  
「断り場面」：有意差なし (表1参照)

## 考察：

- ① スクリプト無のテキストの特徴は学習者の音声理解を促進 (例1参照)
- ② 日本語能力：「依有断無」群 (G1) > 「依無断有」群 (G2)

## 結果：

聴解過程における聴解ストラテジーの使用件数：  
スクリプト無のテキスト > スクリプト有のテキスト  
(平均：16件) (平均：10件)

## 考察：

同じ聴解ストラテジーを使用しても、  
効果的な聴き手：テキストをより深く理解 (例2参照)  
効果的でない聴き手：テキストの理解を妨げ (例3参照)

表1 記述式聴解テストの平均値と標準偏差 (満点：100)

	「依頼場面」		「断り場面」	
	無 (G2群)	有 (G1群)	無 (G1群)	有 (G2群)
平均値	24.57	36.22	35.36	30.98
標準偏差	13.05	14.29	12.39	14.83
G1群・G2群の間の有意差	p < .05		n. s.	

### 例1

③ JJは店長の依頼にどう反応したか。

(受けたくない) 困った。

【スクリプト有のテキスト】

JJ：私が料理ですか。  
店長：調理ですね。  
JJ：調理ですか。  
店長：はい、どうですか。ちょっとやって見ますか？

【スクリプト無のテキスト】

JJ：私がえーっと料理ですか？  
店長：調理ですね  
JJ：調理ですか？  
店長：はいはいはい、どうですか？  
JJ：えーっと  
店長：ちょっとやってみますか？

G2 (2)：JJは驚きました。「調理ですか」と店長に聞いた。元々「料理」と思った。

G1 (1)：JJのたくさんの「えーっと」という言い淀み表現から、彼は(店長の依頼)あまり受けたくない。

G2 (3)：JJはちょっと驚きました。店長はJJに調理の仕事を担当してほしい。

G1 (2)：ん、ここではJJが戸惑っている。<調査者：ん、どこからわかったのか>「えーっと」から。

例1に示したように、スクリプト無のテキストを聴いた被験者G1(1)、G1(2)は、「えーっと」というフィラーを手がかりに、JJが店長の「調理の仕事に変わってほしい」という依頼に対して、否定的な反応を示していることを推測し、テキストの内容をより深く理解する傾向が見られる。一方、フィラーなどを削除したスクリプト有のテキストを聴いたG2(2)とG2(3)は、逆にフィラーがなかったことで、JJは店長の依頼を聞いて驚きましたと誤った推測をした。

## 参考文献

1. Wagner, E. & Toth, P. D. (2014) Teaching and testing L2 Spanish listening using scripted vs. unscripted texts. Foreign Language Annals, 47(3), 404-422

2. Wilson, J. J. (2010). How to teach listening. Pearson Longman.

### 例2：効果的な聴き手

9 店長：でーちょっともうあのー空いちやってるんですよ穴が(はいはい)、スタッフの穴が(はいはい)、で、JJさんほんっと(本当)申し訳ないんだけど、あのー、来月から調理のほうにちょっとシフトあの変更してもらうことはできますか

G1 (2)：ん、店長はJJにシフトを代わってもらいたい。<調査者：どんなシフトか。>ん、あの「ちょうり」？<調査者：「ちょうり」の意味が何か、推測できるか。>ん、聞いたことがある言葉だけど、…、ん…、厨房で野菜を切ったりするとか、雑用を担当するかな。ん、どんな漢字か？

10 JJ：私がえーっと料理ですか？

11 店長：調理ですね

12 JJ：調理ですか？

13 店長：はいはいはい、どうですか？

14 JJ：えーっと

G1 (2)：ん、ここではJJが戸惑っている。<調査者：ん、どこからわかったのか>「えーっと」から。

#9の店長の発話について、被験者G1 (2)は「ちょうり」という言葉の意味に疑問があるが、完全にわからないというわけではない。手がかりは不明だが、「ちょうり」の意味をほぼ正しく推測した。また、#10から#14の会話の「えーっと」という発話の音調を手がかりに、JJが店長の「調理の仕事に代わってほしい」という依頼に対して、否定的な反応を示していることを推測した。

### 例3：効果的でない聴き手

4 JJ：ちょっとそのえーっと、大学一の方(ほう)の色々課題とかがちょっと多くなってきて(うーん)おりましてちょっと、現状け今一し今の段階でもうかなりちょっと厳しいんですけどねえーっとその一

G2 (2)：ん…、JJは現在のあの、何だっけ、「かんじょ」と言ったか?「かのじょ」が厳しい。

5 JJ：なんですちょっと申し訳ないですけども(はい)その週二日に、勤務に変えていただくことはある可能でしょうか?

G2 (2)：ん…、JJは…、帰って…、帰って…。よく聞き取らなかった。

6 店長：あーちょっと厳しいですねーもう

7 JJ：ほんとはですか?

G2 (2)：ん…、家のルールはたぶん…、たぶんルールのために止むを得ずこのようにした。

被験者G2(2)は、まず#4の発話の「かなりちょっと」→「かんじょ」と聞き間違い、自分の既知言葉の中から、「彼女」だと誤って理解した。また、後続のテキストを聞き続けると、#5の発話の「変えて」に続いて、再び自分の言語知識から、「帰って」だと誤解した。しかし、「変えて」→「帰って」の誤解が、後文の理解に影響し、「ちょっと厳しい」の主語は家のルールに関することだと誤った推測をして、誤りの連鎖が生じているが窺われる。